

道標

お盆明けからアメリカの首都ワシントンDCに行きました。今回の滞在期間は20日。長短合わせて30回目の渡米です。

平日は朝9時から夕方5時までメリランド州にある国立公文書館での史料収集に充てました。自分がどんなテーマに興味があつて、どついつ方向からアプローチし、何を明らかにしたいのかをピンポイントで学芸員に伝え、史料を探してもらつた方法が気に入っています。最初から親切にしてくれる人は多くはありません。膨大な史料の細かい内容は彼らの記憶に頼るところが大きいく、その掛け合いが成功への鍵であり、調査の魅力でもあります。

宿泊は、地下鉄デュボンサークル駅近くの朝食付き民宿に決めています。

DC便り

経営者は日本人女性で、110年前に建てられたジョージアン様式建築の内装を少しずつ改装しながら、今の形に造り上げてきたそうです。和洋折衷のインテリア、アンティーク家具やさり

村川 庸子



敬愛大国際学部教授

2011.9.25

を考えられる、幸せな時間です。ただ、今回の滞在では、いつもと少し異なることがありました。

まず、飛行機の到着が、DCでは115年ぶりという大地震の直後であったこと。夜、日本にいる夫からのメールで初めて気づきましたが、途中の道が大混雑し、運転手同士で怒鳴り合っていたのは停電で信号が止まっていたためだったのでしよう。週末はハリケーン・アイリーの襲来。宿は小高い丘の上であり、早くに夕食用の食料も買い求めています。夜には宿のマネジャーが、チーズとワインの「アイ

「愛媛県産」に出合う

げなく飾られた西洋絵画、浮世絵が落ち着いた雰囲気を出しています。公文書館からの帰り道にはおしゃれなレストランで夕食を済ませ、宿でゆつくりコーヒーを手に過す。雑務を忘れて一人、自分のやりたいことだけ

リン歓迎パーティーを用意してくれました。宿泊客が集まって和気あいあいのひとときを過ごしました。DCまで地震と台風が追いかけられるとは思っていませんでした。最大の違いは今年84歳になる母が同

ふるさと伝言

行したことでしょうか。平日は公文書館の広くて明るいカフェやホテルで読書やお習字、刺し子などをしてゆつくり過ごしていました。土日は通常、私も一日中ブラブラしているのですが、日本のメーカーに当たる「レーバーデー」の3連休には思い切って一緒に市内観光に出ました。初日はワシントン記念塔(地震でひびが入って閉鎖中)を近くで眺め、フリーア美術館からアメリカ史博物館、ホワイトハウスを見て自然史博物館まで数時間かけて歩きました。2日目は軽めのメニューで、ペンタゴンシティのショッピングモール。3日目はツアーバスでリンカーン記念館や桜の名所を含めワシントン市内の名所をほとんど見えました。そつそつ、自然史博物館の「玉石・石」の展示で愛媛県産の大きな黒い結晶を見つけました。帰宅後、Googleで検索してみると、西条市の市之川鉱山の輝安鉱かと思われまふ。こんなところで「Ehime Japan」に出合ったことも思いがけないことでした。(むらかわ・よつこ、今治市出身)